

教会の正面の“顔”と言えば、標語・説教題の看板、あるいは色とりどりの花がいま咲き誇っているあの花壇…。そこに2年ほど前、新しい仲間が加わりました。「日曜学校掲示板」です。様々な集会や活動を随時伝え、生徒の絵も代わる代わる貼っています。道行く人たちも近寄ってよく見えています。この4月からは「虹の絵」がかかっています。第一弾は、中2のMさん。休校が続くなか、気分転換に教会へ来たものの、時間を持て余し気味。そこで、「描いてくれない？」と頼んでみると、二つ返事でした。スマホで好きな動画や音楽を流しながら、まさに鼻歌混じりの早業に、「さすが21世紀人！」と感心しました。

最近新たに2枚、小6と小3のSきょうだいの絵が加わりました。どの絵にもメッセージが添えられています—「コロナを越えてゆけ〜」(ちょっと前に流行ったTVドラマ「逃げ恥」の主題歌風に)、「早くコロナが収束しますように」「早く外にでられますように」と。(教会ホームページ「日曜学校専用ページ」もぜひご覧ください！ 子どもたちの虹の絵も、まだまだ絶賛大募集中♪)

人呼んで六角橋教会「虹の絵」プロジェクト。発祥はイギリスやニューヨークです。SNSで広がった自然発生的なもので、家の窓やショーウィンドウにかかる子どもの絵を、NHKが4月早々に報道したのをたまたま見て思ったのです—「これだ！ これなら教会にもできる。道行く町の人たち、そして社会に何か小さなことから♪」と。

「虹を越えて (Over The Rainbow)」と言えば、映画「オズの魔法使い」の主題歌が有名ですが、西洋の“原イメージ”は創世記のノアの箱舟、とくに9章の「虹の約束」でしょう—目に余る人類の悪。これを正そうと起こした洪水。でも、ノアのまっすぐな信仰を見た神様は悔いて、こう約束したのです。「こんなことは二度とすまい。私は恵みをもって、あなたがたといつも共にいる」と。その“しるし”として虹を見せた…。

以来、聖書は自然災害や疫病を“天罰”とは考えません。新型ウィルスは、神様が造られた自然の一部。そして私たちもまた、人間が、自然の中のごく小さな一部であり、その端っこに生きることがゆるされている存在だということを、(ほんとうの意味で)謙虚に学びなおす機会にできるか。問われているのは、私たち人間のほうなのです。(加山真路)